

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成28年6月23日(2016.6.23)

【公開番号】特開2014-28119(P2014-28119A)

【公開日】平成26年2月13日(2014.2.13)

【年通号数】公開・登録公報2014-008

【出願番号】特願2013-102679(P2013-102679)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 1 C

A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】

【提出日】平成28年4月25日(2016.4.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技者への遊技球の貸し出し処理と、遊技球を貯留するための記憶媒体の情報の読取りおよび書込みなどの情報処理とを行う情報処理装置と通信可能に構成されており、発射装置により遊技盤に発射された遊技球を回収し、回収した遊技球を前記発射装置により再度発射することで、内部に封入された所定数の遊技球を循環的に使用して遊技を行う遊技球封入式の遊技機であって、

遊技の進行を制御する主制御装置と、

前記情報処理装置より遊技球の貸出情報又は遊技球の貯留情報に基づいて遊技者が遊技に用いることができる遊技球の持ち球数の情報を受け、該持ち球数の情報に基づいて前記発射装置を制御せしめるとともに、遊技盤に設けられた複数の入賞口への入球に応じて賞球を付与する副制御装置と、

該副制御装置に、前記発射装置により発射される遊技球を検出する発射球検出手段と、

遊技盤に発射された遊技球のうちの入賞した入賞球を検出する入賞球検出手段と、

入賞しなかったアウト球を検出するアウト球検出手段と、

遊技盤面上に遊技球を停留する停留装置と、

該停留装置内に停留された遊技球が存在するか否かを判定する停留判定手段と、を具備し、

前記発射球検出手段により検出される発射球数と、前記アウト球検出手段により検出されるアウト球数と、前記入賞球検出手段により検出される入賞球数とにより、発射球数の管理を行い、

前記停留判定手段により停留された遊技球が存在すると判定された場合には、前記入賞球検出手段により検出される入賞球数及び前記アウト球検出手段により検出されるアウト球数を確定しなく、

前記停留判定手段により停留された遊技球が存在しないと判定された場合には、停留された遊技球が存在しないと判定された後から所定時間経過したことを条件として、前記入賞球検出手段により検出される入賞球数及び前記アウト球検出手段により検出されるアウト球数を確定する、

ことを特徴とする封入式遊技機。

## 【請求項 2】

遊技終了時に、前記入賞球検出手段により検出される入賞球数と前記アウト球検出手段により検出されるアウト球数とを合算した球数が、前記発射球検出手段により検出された発射球数と等しくなければ異常とすることを特徴とする請求項 1 に記載の封入式遊技機。

## 【請求項 3】

遊技中の所定時間帯において、前記入賞球検出手段により検出される入賞球数と前記アウト球検出手段により検出されるアウト球数とを合算した球数と、前記発射球検出手段により検出された発射球数との差が予め定められた所定個数以上であれば異常とすることを特徴とする請求項 1 に記載の封入式遊技機。

## 【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

請求項1に記載の発明は、遊技者への遊技球の貸し出し処理と、遊技球を貯留するための記憶媒体の情報の読取りおよび書込みなどの情報処理とを行う情報処理装置と通信可能に構成されており、発射装置により遊技盤に発射された遊技球を回収し、回収した遊技球を前記発射装置により再度発射することで、内部に封入された所定数の遊技球を循環的に使用して遊技を行う遊技球封入式の遊技機であって、

遊技の進行を制御する主制御装置と、

前記情報処理装置より遊技球の貸出情報又は遊技球の貯留情報に基づいて遊技者が遊技に用いることができる遊技球の持ち球数の情報を受け、該持ち球数の情報に基づいて前記発射装置を制御せしめるとともに、遊技盤に設けられた複数の入賞口への入球に応じて賞球を付与する副制御装置と、

該副制御装置に、前記発射装置により発射される遊技球を検出する発射球検出手段と、

遊技盤に発射された遊技球のうちの入賞した入賞球を検出する入賞球検出手段と、

入賞しなかったアウト球を検出するアウト球検出手段と、

遊技盤面上に遊技球を停留する停留装置と、

該停留装置内に停留された遊技球が存在するか否かを判定する停留判定手段と、を具備し、

前記発射球検出手段により検出される発射球数と、前記アウト球検出手段により検出されるアウト球数と、前記入賞球検出手段により検出される入賞球数とにより、発射球数の管理を行い、

前記停留判定手段により停留された遊技球が存在すると判定された場合には、前記入賞球検出手段により検出される入賞球数及び前記アウト球検出手段により検出されるアウト球数を確定しなく、

前記停留判定手段により停留された遊技球が存在しないと判定された場合には、停留された遊技球が存在しないと判定された後から所定時間経過したことを条件として、前記入賞球検出手段により検出される入賞球数及び前記アウト球検出手段により検出されるアウト球数を確定する、ことを特徴とする。

## 【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

請求項 1 に記載の発明によれば、停留判定手段により停留された遊技球が存在すると判定された場合には、前記入賞球検出手段により検出される入賞球数及び前記アウト球検出手段により検出されるアウト球数を確定しない。

これにより、停留される遊技球が存在する場合には、入賞球数及びアウト球数を確定しないので、「発射球数 = イン + アウト」の関係が成立しないとして異常を報知することを防止できる。

また、停留判定手段により停留された遊技球が存在しないと判定された場合には、停留された遊技球が存在しないと判定された後から所定時間経過したことを条件として、入賞球検出手段により検出される入賞球数及びアウト球検出手段により検出されるアウト球数を確定する。

これにより、遊技終了後には、正確に「発射球数 = イン + アウト」の関係をチェックすることができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

請求項 2 に記載の発明は、遊技終了時に、前記入賞球検出手段により検出される入賞球数と前記アウト球検出手段により検出されるアウト球数とを合算した球数が、前記発射球検出手段により検出された発射球数と等しくなければ異常とすることを特徴とする請求項 1 に記載の封入式遊技機である。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 2】

請求項 3 に記載の発明は、遊技中の所定時間帯において、前記入賞球検出手段により検出される入賞球数と前記アウト球検出手段により検出されるアウト球数とを合算した球数と、前記発射球検出手段により検出された発射球数との差が予め定められた所定個数以上であれば異常とすることを特徴とする請求項 1 に記載の封入式遊技機である。